

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	神学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ（学部） コースワークとリサーチワークのバランス（院）
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供（学部） 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容（学部） 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供（院） 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供（専院）

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. カリキュラム・ポリシーに基づいて、開講科目の体系を内外に明示する。	→カリキュラム・マップの作成(2013年度までに)	C	B	/	/	/
2. カリキュラム・ポリシーに基づいて、開講科目の適切性を検証する制度を構築する。	→既存のカリキュラム研究委員会(学部)による検証および教授会に対する報告書の作成(2013年度までに)	C	C	/	/	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成・実施方針)と各授業科目との関連性について、カリキュラム・マップおよびディプロマ・ポリシー(学位授与方針)も含めた関連表を作成・公開した(2010年度)。その過程において検証の結果、授業科目は概ね適切に開設され、教育課程も体系的に編成されていると考えている。
☆ 小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 各授業におけるシラバス作成にあたって、カリキュラム・ポリシーが、各授業の「到達目標」の要素として反映されるような記述に取り組んだ(2011年度)。それらの試みを踏まえつつ、今後はカリキュラム研究委員会(学部)などで、教育内容を検証していく仕組みを整える。
その他	

《評価指標データ》

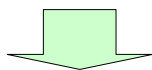
- MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
- ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
- 専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	カリキュラム・ポリシーと各授業科目との関連性について、カリキュラム・マップおよびディプロマ・ポリシーも含めた関連表を作成した(2010年度)。それらは学部WEBサイトのほか、毎年度初めに学生へ配付する『履修の手引き』(履修心得)にも掲載している。周知・理解について進捗をみていると考えている。
★小項目6.2.2	各授業におけるシラバス作成にあたって、カリキュラム・ポリシーが、各授業の「到達目標」の要素として反映されるような記述に取り組んだ(2011年度)。FD研修会などを通じ、各授業担当者間の理解が進んでいる。
その他	



【次年度に向けた方策(1)】**伸長させるための方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	学生アンケートによる分析など、方針に定めた効果があがっているか評価する方法を構築する。
★小項目6.2.2	カリキュラム・ポリシーを踏まえたかたちで「履修モデル」を再度検討し、その過程で教育内容についての検証を行っていく。
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	カリキュラム・ポリシーの実践性、適切性を検証する仕組みを構築する必要がある。



【次年度に向けた方策(2)】**改善方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	
★小項目6.2.2	
その他	カリキュラム・ポリシーの検証に際し、カリキュラム研究委員会(学部)および教授会の役割を明確にし、仕組みの検討を開始する。

◎**自由記述**

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他(自由記述)	
------------	--

Ⅲ. **学内第三者評価**

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○カリキュラム・ポリシーが策定されたのを受けて、着実な作業がなされています。PDCAサイクルを実質化するために、検証体制の整備が待たれます。

【学内委員】

○設定した目標に即して順調に進展しています。シラバスの記述については、もう少し具体的な説明をしてください。

○小項目6.2.2の現状説明では、「検証の結果、授業科目が(CPに基づいて)概ね適切に開設され…」とありますが、目標2で挙げておられる制度の構築には至っていないということでのC評価でしょうか。

○CP、DPとカリキュラム・マップ、シラバス等が関連性も含めて学生も提示されていることは高く評価できます。これらがより教育の質を高めるための取り組みとなるよう、その周知度、理解度、効果について検証する仕組みを構築されることが期待されます。

○自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかりやすく説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことのわかる必要があります。そのためにも、各小項目においてもう少し説明が欲しいところです。

○各目標の着実な進捗と達成に期待します。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

- ・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性
- ・学生の順次的・体系的な履修への配慮
- ・各学位課程の固有の課題に応える措置(例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など)

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

小項目6.2.1における現状説明について、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーあるいは各設置科目との関連を検討する作業過程で、その適切性について一定の検証を試みたが、定期的な検証を行う制度づくりまでには至っていない。

★小項目6.2.2における現状説明に関して、授業シラバスにおける、特に「到達目標」の記述に際しては、カリキュラム・ポリシーのどの部分を、どの科目が担っているかの関連性を示したカリキュラム・マップを参考にし、到達目標がカリキュラム・ポリシーに沿ったものとなるようにしている（FD研修会の実施とともに、シラバスの記述を授業担当者に依頼する際には具体的な記述方法を提示するなどしている）。